

**国連安保理改革に関する
G 4（日本、インド、ドイツ、ブラジル）外相会合
共同プレスステートメント（仮訳）**

- 1 2019年9月25日、G 4の外務大臣である、エルネスト・アラウージョ・ブラジル外務大臣、ハイコ・マース・ドイツ連邦共和国外務大臣、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣及び茂木敏充日本国外務大臣は、ニューヨークでの第74回国連総会の機会に会合を実施した。
- 2 G 4外相は、2005年世界サミットにおいて各国首脳が企図した、安保理の早期かつ包括的な改革への強力なコミットメントを改めて表明した。また、G 4外相は、現実をより良く反映するために、国連を改革し、その主要な意思決定機関を刷新する取組の重要性を強調した。G 4外相は、安保理の代表性、正統性、実効性を高め、その結果、国際の平和と安定に関して世界が今日直面している複雑な課題に対応する能力を強化するために、常任・非常任理事国双方における拡大が不可欠であることを強調した。
- 3 G 4外相は、安保理改革に関する政府間交渉（I G N）における最近の取組を振り返り、アフリカ共通ポジションがより良く反映されているものの、I G Nの開始から10年以上が経ち、具体的な成果が得られていないことに深刻な懸念を表明した。また、G 4外相は、直近の会期を通じ、I G Nが必要な公開性及び透明性を欠き、その作業方法の欠陥による制限を受けている点が改めて明らかになったと結論付けた。「安保理議席の衡平配分及び拡大並びにその他の関連事項」が1979年に国連総会の議題とされてから40年が経過したことを踏まえ、G 4外相は、実質的な交渉がなく、一般的な声明のみに基づいた議論から決別する時が到来したことを強調した。さらに、G 4外相は、大多数の国連加盟国が安保理の包括的な改革を強固に支持しており、I G Nがより成果志向のプロセスになることを当然に期待している点に留意した。
- 4 G 4外相は、2020年に国連創設75周年を迎えることを念頭に、今会期の国連総会により、全世界の首脳が2005年世界サミットで行った安保理の「早期改革」の呼びかけに向けてようやく進み出す道が切り拓かれることへの強い期待を表明した。改革は、常任・非常任理事国双方のカテゴリーの拡大のみならず、安保理の作業の透明性及び実効性を高める取組も含むべきである。G 4外相は、G 4各国が国際の平和及び安全の維持に主要な責任を負う能力と意思を有することに基づき、改革された安保理において新規常任理事国になることを

目指して、相互の立候補支持を改めて表明した。安保理をより正統性があり、実効的で、かつ代表性の高いものとするため、発展途上国及び国連への主要貢献国の役割拡大に対する明確な必要性が存在する。

- 5 G 4 外相は、ティジャニ・ムハンマド・バンド第 7 4 回国連総会議長による改革プロセス前進へのコミットメントを歓迎した。G 4 外相は、ムハンマド・バンド議長に対する完全な支持を表明し、I G N の作業方法が刷新され、最近 1 0 年超で十分に概説されてきた加盟国の立場及び提案が反映された包括的な単一の文書に基づくテキストベース交渉が早期に開始されるべきとの要望を改めて表明した。
- 6 G 4 外相は、安保理改革に関する議論が、民主的かつ透明な形式で、国連総会の標準的な作業手続に則ったものであるべき点を強調した。I G N は、国連憲章及び国連総会の規則と手続に基づく意思決定要件と作業方法によって進められるべきである。また、G 4 外相は、I G N を可能な限り早く開始し、第 7 4 回会期の最終段階まで継続して、国連総会会期スケジュール全体を活用することで、交渉のための十分な時間が加盟国に与えられるべきであることを主張した。G 4 外相は、テキストベース交渉の開始を通して実質的な進展を得るべく、G 4 が他の改革推進派諸国やグループに対する関与を継続していくことを強調した。
- 7 G 4 外相は、改革され拡大した安保理において、アフリカが常任・非常任双方のカテゴリーにおいて代表されることへの確固たる支持を表明し、この代表性の強化こそが安保理におけるアフリカの過小な代表性に関する歴史的不正義を正す唯一の方法であることを強調した。この観点から、G 4 外相は、エズルウィニ合意及びシルテ宣言に記されているアフリカ共通ポジションが十分に反映されることへの支持を再度表明した。
- 8 G 4 外相は、第 7 4 回国連総会の会期中において具体的な成果を追求する決意を表明し、安保理の早期改革推進に向けた総会議長の取組を支持していくよう、G 4 各国の代表団に指示した。

ニューヨーク

2019年9月25日